

活水の ススメ

在学生によるフリートーク



音楽学部 音楽学科 4年
つる まゆみ
鶴 真由美さん
内定先 横浜市立大学に内定
出身高校 佐賀県/三養基高等学校

文学部 現代日本文化学科 4年
ながお とき
永尾 時さん
内定先 番組制作会社に内定
出身高校 長崎県/西陵高等学校

文学部 英語学科 4年
いのうえ せいら
井上 聖羅さん
内定先 大手通信販売会社に内定
出身高校 長崎県/活水高等学校

活水の魅力と学生生活の楽しさ

活水に来てよかったと思うことは何ですか？

永尾 活水の授業は少人数が多いので、友だちや先生方との距離がすごく近い大学だと思います。先生方に質問や相談をしても、親身になってくださいますし、ゼミの先生は本当に親みたいな存在で、アットホームな雰囲気がとても素敵だと思います。

井上 距離が近いというのは、確かに魅力だと感じます。私は、英語を専攻しているのですが、活水では専門分野だけではなく、他の教養科目も充実しているので、例えば文学部では英語学科に在籍していても人間関係学科の心理学とかが受講できるんですね。幅広く学ぶことができるのもうれしいですし、他学科の先生にも質問しやすい環境なので、とてもありがたいです。

鶴 少人数で言えば、音楽は特に少ないですよ。今、一学年に19人です(笑)。でも、だからこそ縦のつながりも結構あって、高校の部活の延長のような感じもあります。先輩、後輩とも仲がいいし、先生とも距離が近いし、少人数でよかったと思います。



大学生活について、どのような印象がありますか？

永尾 いろいろな人に出逢えた印象がありますね。大学の友だちだけではなく、放送研究会に入って、他大学の放送研究会の方とも知り合えて、すごく刺激になりました。

井上 活水は、結構留学生も多いのでカルチャーショックもよく受けますよね。

鶴 寮に入っていると、カルチャーショックを受ける点はよくわかります。特に私の場合、最初のルームメイトが中国の方だったので。

井上 でも、それでコミュニケーションをとることで、自分の価値感は広がるのだと思います。相手は日本語も上手なのでコミュニケーションには困りませんし。

鶴 あと、世代を超えた人とのつながりも楽しかったですね。私は合唱団に入っていたのですが、子どもからお年寄りまで幅広い年代の方がいて、その方々との交流も勉強になりました。高校とは違った、大学ならではの幅広さだと思います。

アットホームな雰囲気、充実した学生生活を送っているようで、ところで、最近ハマっていることは何ですか？

井上 映画を見ることですね。しかも、古い映画を。モノクロ映画などでも、何十年も前の作品だからこそ、逆に今、新しい価値観を得られるような気がします。

それと、英語のものであれば字幕なしで見えるようにして、英語力も鍛えられるように心がけています。

鶴 すごいなあ(笑)。私は就職活動中、映画を見たくてもずっと我慢してきたので、そういう自分の高め方もあるんだ、と。

永尾 私の場合は、映画じゃないんですけど、卒論で『テレビドラマに見る女性の生き方』をやっていて、レンタルで大量に借りてきて、それこそ徹夜で見ました(笑)。

鶴 私も卒論は『ウエストサイドストーリーのミュージカル音楽』についてやっているんですね。そういえば『マイフェアレディ』とか『サウンドオブミュージック』とかは、最近見えていますね(笑)。

就職活動の話題が少し出ましたが、皆さんにとって就職活動はいかがでしたか？

鶴 私は音楽の教員採用試験を受けたんですけど、横浜で採用していただきました。入学してすぐに就職のことが頭にあったので、大学の中にある「教職支援室」に通って地道に勉強した甲斐があったと思います。

井上 「教職支援室」には1年生の頃からずっと通っていたんですか？

鶴 1、2年生の頃は春休みとか夏休みとかの集中講義を受けて、3年生になってから本格的に進めたという感じですね。

永尾 1年生の頃から目指していた夢が叶って、よかったですね。

私は、もともと、食生活健康学科で活水に入学していましたが、マスコミ系の仕事に興味があったので、2年生の後期に現代日本文化学科に転学科したんですね。

就活は、3年生の夏にケーブルテレビにインターンシップに行かせていただいたのが始まりですが、本気で取り組んだのは、その年の12月です。福岡で開催された就活セミナーに参加したとき、他大学の人が大人に見えて、「ヤバイ」と思ったんですね(笑)。

テレビ局が第一志望だったんですけど、プライダも、金融関係も受けました。とにかく、エントリーして、面接を受けてといった状況でした。

結果としては、マスコミ系の企業から内定をいただいたのでよかったのですが、正直、焦りました。

鶴 マスコミ関係の勉強もしていたんですか？

永尾 勉強、というか…好きだったので、テレビ局に行った時の感想を作文に見たり、あとは、放送研究会に入ってラジオ番組を作ったりですね。

井上 いろいろやっているんですね。

私は、一番オーソドックスなタイプなんじゃないでしょうか(笑)。「何をやりたい」というものがそれほど強なくて、だからこそ「興味のあるものを受けよう」と思ったんですね。

食品メーカーのインターンシップにも行きましたし、「いっぱい働きたいんだったら、ベンチャー企業に入ればいいのかも」と思い、ベンチャー企業も受けました。

最終的には、長崎の通信販売会社から内定をいただいたんですが、就活を通して、1人で福岡や東京に行ったり、いくつも面接を受けたことで、ずいぶん鍛えられたと実感しています。



振り返って感じる自分の成長。そして叶えたい夢

まずは、就職という夢を実現された皆さんですが、活水に入学した当初から、今の自分を想像していましたか？

井上 全く想像できていませんでした。むしろ、予想外にしっかりしたなあ、と(笑)。

鶴 本当に、想像はしていませんでした。私は、「音楽教育コース」に在籍しているんですが、このコースには私しかないんですね。まさに、1年生の時からマンツーマン授業。で、鍛えられたと思っています(笑)。

永尾 たぶん、入学当初はぼんやりしていたんだろうな、と思います。でも、今振り返ってそう思うということは、大学時代に予想以上に勉強したということかもしれませんね。

井上 確かに。好きで勉強した感じがありますね。学びたくて学んだという感じですね。

最後に、今後の夢や目標についてお聞かせください。

井上 私は、一見面白くなさそうでも、楽しめるようになろうと心がけています。実際、勉強をしていて、面白くないと感じることもあるのですが、一方で勉強をしていたからこそ、楽しめることが増えたのも事実なんです。ですから、社会人になって苦しいこともあるでしょうけど、その中でも、またその先にも楽しいことがあるんだと思える自分でいたいですね。

鶴 教員の内定をいただいたことは、一つのゴールでもあるかもしれませんが、一つのスタートだと思っています。いい先生になるために、現場で学びながら、考えながら、生徒に夢を与えられるような教師になりたいです。

永尾 メディアを通して、人を元気づけたり、地域活性化につなげたりできたらと思います。もちろん、まだ私はどの部署に配属されるかわかりませんが、少しでも、いろいろな人の役に立ち、長崎に貢献できる人間になりたいと思っています。

皆さん、
本日はどうもありがとうございました。

インタビュー
就職課 奥山浩一郎

